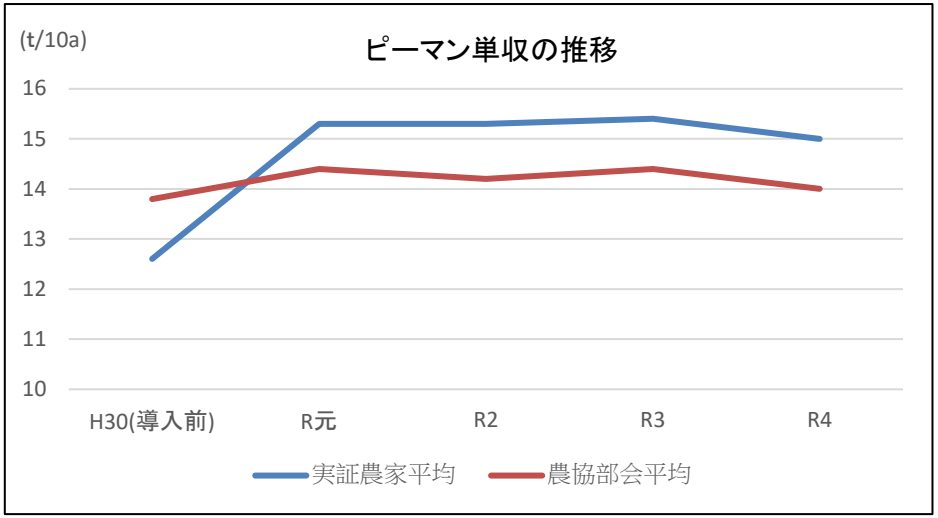
施設園芸　環境制御装置の導入によるデータの「見える化」の実現　【101】

経営体の概要

・所在地：鹿児島県鹿屋市
・経営体名：施設ピーマン農家３名
・栽培作物・作付面積：ピーマン・0.8ha
（令和６年４月現在）

導入技術

・Co2ナビアドバンス（(株)ニッポー製）
ハウス内の温度、飽差、Co2、日射、土壌水分を測定し、ピーマンの生育に適した環境をデータによる「見える化」して、栽培管理に活用するもの。



導入経緯

○ ハウスピーマンの栽培では、ハウス内の環境管理を経験や勘に頼っており、収量のバラツキ等が課題であった。
○ そこでハウス内の環境をデータにより「見える化」し、環境制御装置を活用して管理作業の省力化や収量の向上等を目的に、令和元年度から環境制御装置を導入し実証を開始した。

取組の特徴・効果

○ ハウス内に環境制御を導入して、ピーマンの生育に適した肥培管理に活用。

○ これにより環境データを「見える化」し、効果的なハウスの開閉や水分管理等における判断が容易になった。

○ 今回の環境制御装置の導入により単収の向上が図られた。
・約２割の増（12.6 t /10a→15.4 t /10a）

○ 引き続き他の生産者に対しても、環境制御技術の普及・推進を図っていく予定。